

捕鳥ラックを用いた省スペースな殺処分方法の検討

討：岡山県岡山家保 佐藤静子、高病原性鳥インフルエンザ検討部会

高病原性鳥インフルエンザ発生時の防疫措置において鶏出荷用ラック（ラック）を用いた殺処分方法について検討。鶏舎長が長い大規模農場では捕鳥のみにラックを使用した場合でも従来の台車法より動員者の移動距離・時間が削減し、負担軽減につながることを試算。さらにコンテナに代わり備蓄や運搬が容易で省スペースなラックケースを検討。ラック 1 台が入る発砲スチロール素材とテント素材の 2 種類のケースを試作し、ケース内の二酸化炭素（CO₂）濃度が 40% 以上の濃度になることを目標に試験を実施。それぞれのケースの容積や CO₂ ガスの漏れの差もあるが、発砲スチロール素材では CO₂ を 30 秒注入、テント素材では 20 秒注入で目標濃度到達。さらに廃鶏を用い CO₂ 注入後に死亡するまでの静置時間を検討。発砲スチロール素材では 5 分間静置、テント素材では 3 分間静置で死亡。今後、実用化に向け CO₂ 注入口や CO₂ 注入時の内圧の逃し方等の改良を検討。